

第28回熊野川の総合的な治水対策協議会

2025年 3月 17日

関西電力株式会社
再生可能エネルギー事業本部



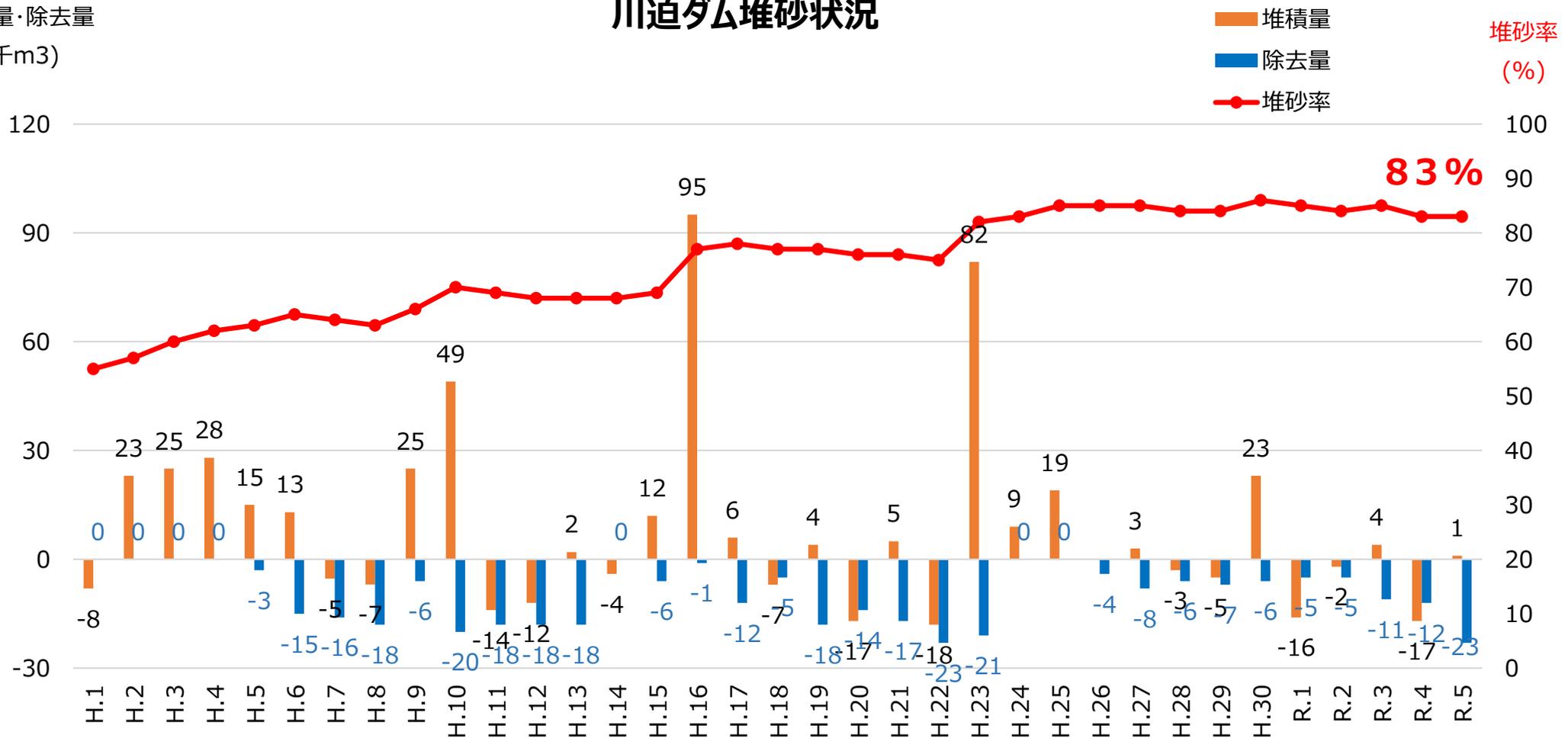
【位置図】



ダムの堆砂が著しいため、毎年土砂除去を実施

堆砂量・除去量
(千m³)

川迫ダム堆砂状況



川迫ダムは、ほぼ満砂状態。

出水の都度、上流からの土砂供給があり、毎年（12月～2月末）、土砂除去を行っている。

毎年、河川管理者・天川村と協議を行い、土砂除去量を決定している。

・2024年度 : 約20千m³（現地測量実施済、現在、データ整理中）

川迫ダムは、ほぼ満砂状態。出水の都度、上流からの土砂供給があり、毎年の土砂搬出を行っているが、以下の課題がある。

- ・発電原価の高い発電所であり、さらなる効率化が必要
- ・ダム～下流～土捨場までのアクセスルートが、景勝地・観光地の「みたらい溪谷」を通過。地元要請により、土砂運搬車両の通行期間が年間3ヶ月程度に限られる。
- ・アクセスルートの道路幅員が狭隘で4トン車の交互通行となり、搬出効率が悪い。
- ・地元は、みたらい溪谷の河床変動を懸念されている。



- 河川環境、地元感情に最大限配慮しつつ、ダムから土砂を搬出する、あらゆる方策の検討を進めたい。
- 検討にあたっては、「熊野川の総合的な治水対策協議会__総合土砂管理専門部会」や弊社の所有するダムがある最上流部における関係機関と連携し検討を進めたい。

- ・最上流部における関係機関との土砂対策検討の実施
⇒検討体制構築に向け、奈良県・天川村・国土交通省にて検討中
- ・河川環境調査の実施
⇒2024年度から調査開始（現地調査11月実施済、データ取りまとめ中）
- ・ダム近傍での新たな土捨場の確保
⇒検討中

土砂搬出路である国道309号線は狭隘であるため、4トン車の交互通行となり搬出効率が悪い。



- 川迫ダムの土砂移動状況を確認するため、環境調査を行う。
- 河川形状測量（航空測量）、性状調査を行う。
(現地調査 1 1 月実施済、データ取りまとめ中)



調査目的	調査項目
河川形状	航空測量
河床構成材料	粒度分布
底質の情報把握	外観、臭気、pH
底質の有機物含有量	強熱減量, COD, T-N, T-P
底質の還元(酸素)状態	硫化物、ORP

【参考資料】

九尾堆砂状況

川迫ダム・九尾ダムの堆積土砂状況

R5年03月31日時点

